



巻頭特集

若葉中学校
ジャズアンサンブル部

What's
BIG BAND?

ジャズバンドの形式のひとつ。大人数編成によるアンサンブルで迫力ある演奏を実現。主な楽器はサックス、トランペット、トロンボーン、ドラム、ギター、ベース、ピアノなど。演奏される曲は、ジャズだけでなく、ラテンやソウルをはじめ、多岐にわたる。日本では歌謡曲や演歌なども演奏され、若葉中学校では、老人ホームを訪問した時に演奏している。

大人顔負け、 迫力の名演



上／これから夏の演奏会に向け、技術を上げるべく猛練習に挑みます
左／これまで数々の演奏会で幾度も賞に輝きました

若葉中学校ジャズアンサンブル部は、ビッグバンドと呼ばれる演奏形式で、ダイナミックなサウンドを聞かせてくれます。地域行事や大きな演奏会などに参加し、今や着々とその技術を向上させました。今回、ビッグバンドの魅力や顧問の思いなどを取材しました。



「演奏を聞いていると、ふと心を打たれ涙が流れることがあります。そんな時、皆を指導していたよかったと思うんです」と塚崎崇史先生

2007年に若葉中に赴任。指導に当たっています。

部員は59人。そのうちの約9割が女子生徒です。皆ほとんどジャズを聞いたことがありません。また、楽器に慣れ親しんだ経験を持たない生徒ばかり。

「本校のジャズアンサンブル部は、以前から地域行事での演奏を盛んに行っていました。現在の部員

名古屋でも数少ない
ジャズアンサンブル部

放課後の若葉中学校の学び舎から聞こえてくる楽器の音色。西側校舎をのぞくと、ジャズアンサンブル部が練習の真っ最中でした。一般的には、落ち着いたムードがただよう大人の音楽に感じられるジャズですが、ここはビッグバ

の多くは、自分が小学生の時に先輩の演奏を各行事で見た経験を持っています。そこで、自分より少し年上のお兄さんやお姉さんがギターやドラム、サックスなどを奏でている姿に憧れを抱き、『進学したら自分も!』とやる気が芽生えるんですね」

現在部長を務める3年生の河合萌々子さんも、こうした体験があつて入部を決めました。

「ドラムを叩く先輩を見て、思わず圧倒されました。特にソロパートのカッコよさは今でも鮮明に覚えています」と河合さん。当初は管楽器に興味を持っていたそうですが、「私もあの先輩のように」と憧れの気持ちが高まり、ドラムを担当楽器として選びました。

「何よりまずは憧れや情熱が重要」と塚崎先生。楽器を演奏できなくても、気付けば部員たちは有名ジャズアーティストのCDを



部長の河合萌々子さん。入部のきっかけくれたドラムの先輩も部長だったことから、「自分も先輩から憧れられる存在になりたい」と意気込みを話してくれました

聞き込んだり、動画サイトで演奏テクニックを学んだり、皆ジャズの世界にのめり込んでいます。

ビッグバンドを通して
人間力を高めていく

普段の練習は、個人練習を30〜40分行った後、担当楽器にわかれてパート練習。その後は全体での合奏を行います。パート練習の様子を見ていると、後輩に対して先輩が熱心に指導をしている光景が見られました。これは脈々と受け継がれた伝統で、特に新入部員には、音の出し方をはじめ、指の使い方、演奏姿勢などを丁寧に教えています。

「代々先輩が各楽器を演奏する際の注意事項をメモに残しておくんです。それが次の世代に受け継がれ、皆メモをもとに後輩への指導をしています」

自主性を重んじることで責任感も醸成されます。

また、塚崎先生は「部活動を通して、礼儀や正しい言葉遣い、団体行動における心構えなども磨いていき

たい」と確かな人間力を育てていくことが大切だと話してくれました。人間力が育つと怠慢さがなくなり、結果としてひたむきに練習に取り組むようになります。それが技力の向上にも結びつくというのです。

部は現在、新入部員を迎えたタイミング。これから多くの演奏会が開かれる夏に向けて練習を積み上げます。7月には公益財団法人名古屋市文化振興事業団が主催する「Nagoya Groovin' Summer」



個人練習のひとつ。教室でただひとり黙々とトランペットを吹いたり、廊下で楽譜を見ながら空打ちしています



に参加。そして、8月は神戸で開催される「ジャパンステューデントジャズフェスティバル」で演奏します。昨年はこのフェスティバルで兵庫県知事賞を見事受賞。部にとっても大きな勲章となりました。

「やはり賞をいただけることは誇らしいことですが、受賞のみを追い求めることはしていません。自分たちの演奏が楽しめたかどうかが一番大事だと考えています」

各演奏会は競技ではなく、あくまでも練習の成果を披露する場だと塚崎先生は捉えているのです。また、演奏会に参加すると年上のジャズバンドと交流することもでき、それが部員たちの楽しみのひとつとなっています。演奏会でセッションしたり、会話を交わすことで、すぐれた技術や音楽観に刺激を受け、それがさらにやる気を引き出してくれるのです。

部では大きな演奏会以外にも、地域の小学校や子ども会のイベントなどにも積極的に参加しています。こうした地域交流は今後も継続する考えです。

「演奏を聞いた子どもたちが、若葉中学に入った時ビッグバンドに興味を持ってくれるとうれしいですね。今の部員たちも同じ体験を経てきたわけですからね」



右／塚崎先生の情熱的な指導



左／パート練習では先輩が後輩を指導。わかりやすい説明に聞き入っています